

(様式1)

自 己 評 価 表

(愛媛県立今治西高等学校伯方分校)

学校番号(14)

グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）		カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）			
1 自ら学ぶ力と、豊かな創造性を育てる「真剣」 2 強い精神力と、たくましい体力を育てる「忍耐」 3 人をおもいやり、自己を律する心を育てる「希望」 4 郷土を愛し、地域に貢献する心を育てる「希望」 5 奉仕の精神を養い、自己有用感を育てる「希望」		「にしき（忍耐・真剣・希望）」の体现を目標に 1 探究の道を歩み英知をみがく（真剣）各教科の教育課程を編成します。 2 風雪の道を歩み自己をきたえる（忍耐）特別活動を実施します。 3 理想をかかげ未来をひらく（希望）進路指導を実現します。			
領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
グラデュエーション・ポリシー	グラデュエーション・ポリシーの達成	グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると感じる教職員90%以上を目指します。 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：60%以上 E：60%未満	B	教職員を集計すると81.0%が、「グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長している」との回答であった。グラデュエーション・ポリシーを意識した教育活動が展開できている。	今後も、グラデュエーション・ポリシーに掲げている5つの項目を生徒たちが実践できるように日々の教育活動の改善をしていきたい。
魅力ある学校づくりの推進	魅力ある学校づくりの推進	生徒による授業評価を導入して授業改善を図りながら、学校魅力化を推進することにより、「伯方分校に入学してよかった」と思う生徒100%を目指します。 A：100% B：90%以上 C：80%以上 D：79～60% E：59%以下	D	生徒・保護者を集計すると81.0%（生徒：74.0%[昨年度88.1%]、保護者：92.0%[昨年度86.4%]）が伯方分校に入学して（させて）よかったと感じている。生徒による授業評価の結果は、昨年度と同程度の評価であり良好であった。	今後も、全日制普通科高校としての体を保ちつつ、1つ1つの取組を充実させ、生徒に寄り添った学校運営を続けたい。数値に惑わされることなく、長い目で見た人間形成を心掛けたい。
	教職員の資質・能力の向上	学校の教育目標や経営方針、生徒の活動状況等を、ホームページや学校通信等に掲載するなどして情報発信に努めます。	A	ホームページには教育目標や学校紹介動画を掲載し情報発信に努めた。テレビや新聞への情報提供も行い、マスコミに取り上げられる機会も数多くあった。	しまなみ高校の入学志願者数増加につながる情報発信の方法について検討しつつ、今後も、継続して情報発信に努めたい。
	教職員の資質・能力の向上	校外研修への参加機会を確保しながら、生徒理解研修等により、生徒が充実感や達成感を味わえる学校づくりに努めます。	C	教員全体に校外研修の周知・案内を積極的に行い、学校訪問研修や公開授業、各種セミナー等へ参加を促した。校内における教職員研修も課題を取り上げ話し合いによって共通理解を図るなど、充実した内容であった。	次年度も校外研修への参加ができるよう案内をし、協力体制を整えたい。校内研修も教職員全員で取り組むことができるよう、対話型の研修を多く取り入れ、今年度以上に充実したものになるよう努めたい。
	施設・設備の充実	施設・設備等の点検や情報の適正な管理に努め、保健指導や防災教育の充実化により、安全・安心な環境づくりに努めます。	C	日常点検により危険箇所の早期発見に努めたが、予算上、先送りになっている修繕案件もある。また、施設の老朽化に対し、職員・生徒からの修繕要望件数は少なく実態との乖離が懸念される。	顕在化していない要望や、諦めにより報告されない危険箇所が存在する可能性を踏まえ、現場点検の頻度や質を見直す。また、防災教育について更に推進していきたい。
豊かな学創力と	家庭学習・自主学習等の充実	ICTの活用や適切な課題の提供により、家庭学習の充実を図り、各学年1日平均学習時間180分以上を目指します。 A：220分以上 B：200分以上 C：180分以上 D：160分以上 E：159分以下	A	学年団、教科担任を中心として、家庭学習に関する指導を徹底した結果、目標を達成することができた。 全学年1日平均学習時間：323分	一人一台端末やスタディサプリを活用して、生徒のレベルに応じた課題を提示し、学習意欲を喚起するとともに、家庭学習習慣の確立に努める。
	朝の読書の深化と読書指導の充実	朝の読書をととして、読書に親しみ、思索する態度を育てます。（図書室年間貸出冊数一人当たり3冊以上） A：4冊以上 B：3冊 C：2冊 D：1冊 E：0冊	C	毎学期2週間の朝の読書を実施した。朝の読書週間中は、貸出冊数や図書館利用がやや多いが、平常日は少ない。図書館だよりの発行や、図書館のレイアウト等のリニューアルを行ったが、あまり周知できておらず、利用数は毎年減少傾向が続いている。目標の貸出冊数には届かなかった。	新刊図書の購入を積極的に行い、図書の充実を図りたい。また、読書週間以外の期間も多くの生徒が図書館を利用するよう案内し、読書に親しむ環境づくりに努めたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
豊かな学 創ぶ 造力性	教科指導力の向上	ICTの活用などにより、主体的・対話的で深い学びを積極的に取り入れ、「よく分かる」「学力を伸ばす」授業改善に取り組みます。	C	ICTを活用した授業実践は増加傾向にあるものの、主体的・対話的で深い学びにまで発展させるためには、更なる授業改善が必要である。	生徒の多様化に対応するためにも、ICTを活用した教科指導や人権教育等の指導力向上に資する校内研修（研究授業等）を計画的に実施する。
	各種検定の奨励	各種検定合格者74名以上、上位資格取得者5名以上を目指す。 A：74(5)名以上 B：73～56(4)名 C：55～37(3)名 D：37～28(2)名 E：27(1)名以下	A	各種検定対策が積極的に行われており、特に上位資格取得者の数が増加した。また、生徒の学習意欲の喚起にもつながっている。 合格者数：85（15）名	家庭学習の充実化を図るとともに、個別指導の徹底に努め、上位資格へのチャレンジをサポートする校内体制づくりを行う。
	一人一人の進路実現の工夫	生徒一人一人に応じた適切な進路指導を行うことにより、進学希望者全員の進路実現を目指します。（国公立大学合格3名以上） A：4名以上 B：3名 C：2名 D：1名 E：0名	A	国公立大学合格者は4名で、昨年度（4名）に引き続き、国公立大学合格4名以上となった。私立大学、専門学校の合格状況も良好で、個に応じた適切な指導が行われた。	今後も具体的な進路目標をもたせ、学習意欲向上のために進路課、学年団、担任、教科担任が連携した取組を行っていきたい。
		地元企業や関係機関との連携を密にすることにより、就職情報の提供や求人開拓に努め、就職希望者全員の進路実現を目指します。	B	就職希望者5名のうち3名、就職先が決定した。生徒本人の希望を聞き、就職先決定のための支援を適切に行った。	引き続き、生徒の就職希望を達成するための適切な支援を行っていきたい。
	部活動の充実と活性化	目標を持って1年間継続して部活動に取り組む生徒100%を目指します。 A：100% B：99～90% C：89～70% D：69～50% E：49%以下	B	今年度は、90%の生徒が1年間継続して部活動に参加することができ、多くの生徒が部活動を通して達成感や仲間意識を育むことができた。一方で、学業との両立や人間関係、活動内容への不安等を理由に、途中で継続が困難となった生徒も見られ、目標の完全達成には至らなかった。	学業や生活との両立にも配慮し、無理のない活動の在り方を検討することで、部活動への意欲を高め、次年度は全ての生徒が1年間継続して部活動に取り組めることを目指す。
思いやりと自己を律する心	基本的生活習慣の確立	基本的生活習慣の確立に努め、各学期皆勤者65名(70%)以上を目指す。 A：65名以上 B：64～46名 C：45～37名 D：37～28名 E：27名以下	D	皆勤者数について、1学期37名（41%）、2学期24名（28%）であった。昨年度と比較して皆勤者の割合がやや減少している。	進路目標等、日々の生活に目標を持たせることで、自発的に基本的生活習慣の改善がなされるよう指導する。
		挨拶の励行に努め、豊かな人間関係を育む情操を培うとともに、規範意識を育てる教育活動を充実させます。	A	挨拶を含め礼儀やマナーにおいて、自ら進んで行えるようになった。他者への配慮等、丁寧に指導しなければならない場面においても家庭路の連携を図り、改善が見られた。	学校生活における目標設定など、生徒の自律的生活を適切にサポートする指導に加え、家庭との連携を図ることにより、基本的生活習慣の確立に一層努める。
	互いに認め合い、支え合う仲間づくり	生徒の悩みを受け止める環境づくりに努めるとともに、人権尊重の意識を更に高め、人権侵害を「しない・させない・許さない」生徒100%を目指します。 A：100% B：90%以上 C：80%以上 D：79～60% E：59%以下	C	毎日、昼休みと放課後に教育相談室にて教育相談担当者や相談できるようにした。悩みを抱える生徒が深刻にならない間に解決する等の効果があった。また、不登校傾向の生徒が登校できるようになるなどの成果もあった。毎学期学校生活におけるアンケートを実施し、いじめ等の記述のある生徒への早期対応や、教職員全体への報告、共通理解に努めた。	特に1学期は相談の利用者が多く、複数の教職員が対応したり、昼休みや放課後だけでは時間が足りないことがあった。外部機関の協力を得ながら教職員、保護者、関係者と連携を取りながら、生徒支援を行いたい。また生徒の人権尊重の意識を高められるように努めたい。
郷土愛と地域貢献	特別活動の充実と連帯感の醸成	学校行事や生徒会活動などの特別活動を盛んにし、愛校心や地域に貢献する心を育てます。	A	昨年に続き、令和8年度から統合予定である大三島分校と合同で学校行事を行えた。自らをアピールしたり、他者を理解したりすることで、お互いに認められていることを生徒自身が実感できたように感じる。	地域等の教育力を効果的に生かしながら、総合的な探究活動の更なる充実化を図る。生徒会活動や各種委員会活動の活性化を図るとともに、魅力的な学校づくりに参画しているという自覚を促すことにより、自ら課題を発見し、他者と協働してその解決に取り組もうとする生徒の育成を目指す。
		生徒会や各種委員会を通じてボランティア活動や地域のイベントへの参加を促し、地域が抱える課題について主体的に考える生徒の育成を目指す。	A	地域イベントへのボランティア活動や文化祭などを通じて、地域と連携した取組ができ、一定の成果を得ることができた。	
改善業務	適切な勤務時間と職場環境の整備	校務分掌の整理・統合により、業務分担の適正化と明確化に努めるとともに、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図ります。	C	長期休業中のテレワークや休暇の取得の促進、早出・遅出等の勤務時間の割振りを活用して、ワークライフバランスの充実に努めた。	しまなみ高校開設に向けて、校務分掌や業務分担の全体的な見直しを図り、ワークライフバランスの向上に努めていきたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。